

司書講習を受講して

春日井 正人

はじめに

平成10年4月、健康不安から長年の高校教員を辞して、大学図書館に配属させていただいた。そして夏の9週間、文部大臣委嘱の司書講習を、日進市にある愛知学院大学で受講することになった。

司書の資格は、当中京大学の正規のカリキュラムを受講して取得することも可能だということである。にもかかわらず、当図書館員は他大学の講習を受講することになっている。主な理由は2つあるようだ。1つは、身内の大学では、現職の図書館員が万一不合格になっては何かと辛かろうと講師陣に仏心が生じたり、受講者側にもそれに対する甘えが生じる。また1つには、中京大の場合は、かなり長期にわたって受講することになり、受講者の心理的な負担や仕事上の問題の発生も多く、かつ長引きやすい。その点、他大学での約2カ月という短期集中(職場から見れば、これでもかなり長期の犠牲ではあろうが)の講習は、一石二鳥ということであろう。

ともあれ、新職場について3カ月半。まだ図書館の実務の何たるかを自覚する余裕もないまま、「高齢者?には夏の司書講習は地獄だよ」との先輩職員諸氏のありがたいご忠告を胸に、堅い椅子や効きすぎの冷房対策の伝授を受けて、戦々恐々として受講に赴いたのである。

実際、真夏の9週間は、肉体的に盛りを過ぎた身には本当に苦行であった。しかも、元附属高校教員として1科目でも不合格があっては高校の皆さんに多大な迷惑をかけることにもなると、独り合点のプレッシャーもある。さらには、転職を契機に転居も、と考えたのが延び延びとなってこの夏に重なり、本当に暑い暑い夏となった。

平成10年度の状況

平成10年度の司書講習受講者数は235人、司書補は40人であった。書物離れが叫ばれて久しい昨今、こんな地味で面倒な講習にこれほど多くの若い受講生が集まること自体私には驚きであった。しかし、講師の先生方は、開口一番、「今年は皆さん熱心だが、受講生が少ない」とおっしゃる。うわさによると、愛知学院大学にコンピュータ室が増設され、その台数に合わせて受講者を書類選別したのではないかということであった。今年も例年どおり、受講希望者は司書だけで300人ほどあったらしいという話も流れていた。そういえば、記憶があいまいではあるが、書類提出時の作文のテーマがマルチメディア時代の将来というような内容だったように思う。私のような現職の受講生は配慮していただいたようであるが、その分有為の若い人がはじき出されたとしたら気の毒であった。

それが幸いしたか定かではないが、今夏は、講義中、不必要な私語をするものはほとんどなく、(例年はそのために講義を中断される先生もおられたとか)最後まで緊張と集中が持続していたようである。

司書講習は、7月16日(木)～9月18日(金)の9週間余、週5日平均で、盆休みも土日を含めて3日だけ。毎朝9時10分から1日3～4コマで、1科目講義終了(2日または4日目)ごとに試験が行われるというスケジュールで実施された。講義は15科目20単位、全単位履修修得によって司書の資格が認定される。出欠は毎時間大学事務職員が出席票を時間内に配布回収という厳密さに、厳しさと同時に昨今の大学教育の実態を垣間見せられた気がして、少しく氣勢が殺がれた記憶がある。講師の先生方は、こちらの気後れとは関係なく、エネルギッシュかつ積極的に授業を展開され、いつのまにかその語り口に引き込まれることもしばしばであった。

次に、講習の時間表と担当講師一覧をあげて、この講義の感想をいくつか取り上げてみたい。

平成10年度 司書講習時間割表

月日	曜日	科 目 名	
		午 前	午 後
7/16	木	開校式 オリエンテーション 講演会	図書館 サービス論
17	金	図書館 サービス論	〃
18	土	〃	〃
19	日	/	
20	月	/	
21	火	図書館 サービス論	図書館 サービス論
22	水	図書館概論	図書館概論
23	木	〃	〃
24	金	〃	〃
25	土	〃	〃
26	日	/	
27	月	資料組織概説	資料組織概説
28	火	〃	〃
29	水	〃	〃
30	木	〃	〃
31	金	生涯学習概論	生涯学習概論
8/1	土	〃	〃
2	日	/	
3	月	図書及び 図書館史	図書及び 図書館史
4	火	〃	〃
5	水	資料組織演習	資料組織演習
6	木	〃	〃
7	金	〃	〃
8	土	/	
9	日	/	
10	月	資料組織演習	資料組織演習
11	火	情報検索演習	情報検索演習
12	水	〃	〃
13	木	〃	〃
14	金	/	
15	土	/	
16	日	/	

月日	曜日	科 目 名	
		午 前	午 後
8/17	月	情報検索演習	情報検索演習
18	火	資料組織演習	資料組織演習
19	水	〃	〃
20	木	〃	〃
21	金	〃	〃
22	土	/	
23	日	/	
24	月	情報サービス 概論	情報サービス 概論
25	火	〃	〃
26	水	〃	〃
27	木	〃	〃
28	金	レファレンス サービス演習	レファレンス サービス演習
29	土	/	
30	日	/	
31	月	レファレンス サービス演習	レファレンス サービス演習
9/1	火	〃	〃
2	水	〃	〃
3	木	図書館特論	図書館特論
4	金	〃	〃
5	土	/	
6	日	/	
7	月	児童サービス 論	児童サービス 論
8	火	〃	〃
9	水	図書館経営論	図書館経営論
10	木	〃	〃
11	金	図書館資料論	図書館資料論
12	土	〃	〃
13	日	/	
14	月	図書館資料論	図書館資料論
15	火	/	
16	水	図書館資料論	図書館資料論
17	木	専門資料論	専門資料論
18	金	〃	〃

担当講師一覧(敬称略)

図書館サービス論	名古屋大学教授	新海英行
図書館概論	図書館情報大学助教授	山本順一
資料組織概説	桃山学院大学教授	志保田務
資料組織演習		〃
生涯学習概論	愛知学院大学教授	竹市良成
図書館資料論		〃
図書及び図書館史	名古屋大学教授	篠田 弘
情報検索演習	愛知学院大学教授	磯村孝志
資料組織演習(コンピュータ目録演習)	大阪市立大学助教授	北 克一
	長崎純心大学助教授	岩下康夫
情報サービス概説	愛知学泉女子短期大学助教授	鋤得欣宥
レファレンス・サービス演習	大谷女子大学講師	伊香佐和子
図書館持論	愛知学院大学教授	黒田喜重
児童サービス論	愛知学院大学教授	二宮克美
図書館経営論	前瀬戸市立図書館長	佐橋兼夫
専門資料論(人文・社会科学分野)	愛知学院大学教授	吉田道興
(自然科学分野)	〃	千野光芳

※千野講師は、緊急入院のため急遽吉田講師が代講

講義雑感

図書館サービス論

アレクサンドリアから始まり、ヨーロッパ、近代アメリカ、日本と、図書館サービスの歴史を淡々と語るうちに、いつのまにか新しい図書館サービスの方向と問題点を洗い出し整理して見せてくださっていた。さまざまな図書館にまつわるエピソードも哲学的な意味合いが感じられて、整理業務だけを見、非常に多面的で有機的なレファレンス・サービスの何たるかを忘れてしまいそうな日常からグイと引き戻してくださった講義であった。冒頭の講義にふさわしい、図書館員たらんと意気込んで耳を傾ける受講生の背筋が自然に伸びてくるような、格調高い講義といえた。最初の講義で

あることを意識されて、10人足らずの現職図書館員の受講生に自己紹介をさせたのも、結果的に図書館業務の理想と現実がはっきりわかり、よかったように思う。私自身も三日目に自己紹介させられて少なからず動揺はしたけれども、おかげで現職最年長のおじさんとして同年配から若い女子大生にまで仲間ができ、いたわっていただいた。夏の長丁場を心身ともに楽しく乗り切れたのも多くの仲間のおかげが大きかったように思う。

図書館概論

少壮気鋭の研究者らしく、最先端を走りすぎて財政的破綻を招いた公共図書館の例も含めて、最新のアメリカ図書館事情を、自らの利用体験をふんだんに織り込んで熱のこもった口調で語ってくれた。ここでも、ライブラリアンの専門的職員としての誇りと研鑽を常に忘れずに日々の職責を全うすることを力説された。

資料組織概説・資料組織演習(資料分類法演習)

図書資料の組織化の意義、目的とその問題点を、実例に即して懇切丁寧にまず概説された。とくにNDCやオーサ記号の矛盾点と限界についての自説の展開は、現場を垣間見たものには素直にわかる。また、歴史的展開の中で、実に根気よく分類と目録の、方法論の変遷と実際を概説された。しかし、用語がなんとも複雑で紛らわしい上に、書物の資料から内容をいかに正確に読み取り、どう分類するかが難しく、演習で実例問題を数百題こなして解説してくださったのだが、例年試験も不合格者が最も多いという情報もあって、受講生大半の最大の悩みとなった。しかし、図書館整理作業の要とも言うべき分類だけに、質問と叱責が乱れ飛ぶ、講師も受講生も緊張と熱気に包まれた8日間となった。長い講習のちょうど中ほどにかかったせいもあって、体調を崩す受講生が一番多かったのもこの講義だったようである。

生涯学習概論

社会教育から生涯学習への言葉と概念の変化を説き、生涯学習の意味、意義から今後の課題まで説かれ、これからの生涯学習社会における図書館の新しい役割とその重要性を示唆された講義であった。

図書及び図書館史

わずか2日間の講義であったが、文字、書物の変遷の写真や、わが国の明治以降の図書館の変遷を、法令条文等の資料コピーをふんだんに使ったの興味深く質の高い講義だった。

情報検索演習

初日は、午前中に情報検索の基礎理論とリレーショナル・データベース「Access」を使っただの図書資料検索の基本操作の講義、午後はコンピュータ室に移動して「Access」の実習であった。2日目は、午前中インターネットによる情報検索の方法の講義、午後インターネットを使っただの情報検索の課題実習。これはコンピュータになれていない女性陣には大変な苦痛だったようだ。私個人は、インターネットの検索は初めてに近かったが、「Access」で作られたあるデータを手に入っていて、近々覚えねばならなかったので、タイミングのよい講義になった。

資料組織演習(コンピュータ目録演習)

これも講義と実習がセットの科目。課題は直接書誌情報(半分は英語)が与えられて、それをコンピュータに入力するのだが、ここで前に学んだ分類法がまだ十分自分のものになっていない受講生にとっては、分類法とコンピュータという両面の敵に悩まされた。しかし、実習支援講師と愛知学院の学生、院生による根気のいいアシストのおかげでほぼ全員がクリアできたようである。今年度から全員実習の形になったコンピュータの講義は時流にかなったもので、今後もっと時間を増やしてほしい部分である。

情報サービス概説

情報サービスの意義、種類、機能レファレンス・プロセスの技法などをきめこまかく解説。現場を長く潜り抜けてきた経験からくる神経のこまやかさが感じられた。また、新旧の愛知県図書館の設立計画にかかわる苦労話から、公共図書館と中央図書館のハザマで行政と市民の調整に苦しむ図書館の現実の姿を知ることができた。

レファレンス・サービス演習

これも講義と図書館での実習がセットになった科目。レファレンス・サービスの実習ということで、利用者からの質問事項が、個人課題として

ひとり2題、グループ課題として、特定分野の参考図書解題または主題書誌の作成が課され、最後にレポート発表となった。個人課題は、回答を見つけるだけでなく、質問の受付・分析から回答の範囲、提出方法まで一連の流れとして捉えさせるもので、資料が見つからない者、検索方法がわからない者で愛知学院大学図書館の参考図書コーナーがごった返した2日間であった。身重の体で無秩序な受講生の質問の嵐に独楽鼠のようにかけまわって指導して下さった若い講師の先生に感謝あるのみである。

図書館特論

ここでは著作権法について講述された。著作権にも、著作人格権、著作財産権、出版権、著作隣接権の別があることを知らされた。文化発展のための情報提供の容易さと著作者の利益保護の問題の難しさ、国際関係での著作物保護のあり方などに触れ、機械的なコピーの精度が高い今日(一般的にも著作権の利益保護の問題で揺れているが)、図書館でも資料提供の有料化と絡んで著作権問題に細心の注意を払う必要を説いた。

児童サービス論

児童室の運営、児童図書の扱い、児童サービスの実際と技術などについて児童心理学を基礎にして解説。なかでストーリーテリングの実習として、種類の異なる童話を数話指名読みさせて、児童サービスの方法の一端を実感させてくれた。

図書館経営論

生涯学習社会における図書館を視点を、図書館経営にかかわる組織、管理、運営、計画について学習。図書館長、職員の専門性と司書資格の問題、図書館運営にかかわる業務委託の問題に多くの時間を割いたユニークな講義であった。

図書館資料論

ニューメディアの発展に伴う図書資料の多様化の時代を踏まえて、図書選択の理論と歴史、資料の種類、分担収集などの蔵書管理方法などを論じ、明日の図書館のあり方に問題を投げかけた。

専門資料論

書誌・書誌学の基礎的知識を身につけ、人文・社会科学系分野と自然科

学系分野それぞれに、研究書、参考資料の代表的なものの書誌解題解説によって利用法を身につけさせる講義であったが、自然科学系分野担当講師の突然の病気入院で、急遽人文・社会科学系分野のみになったのは残念であった。しかし、書誌、書誌学の意味と役割の重要性を十分に感じさせてくれた。

おわりに

たまたま、私が、図書館の現職職員としての受講生の中で最年長(図書館員としてはまったくの初心者)だったことで、何かと講義のたびに指名され、朗読やレポート発表と気の抜けない講習であった。そのおかげで、脱落することもなく無事終了することができたし、多くの仲間と知り合えたと思っている。

図書館職員の専門性がややもすると軽視されやすい日本にあって(ということもこの講習ではじめて意識)、図書館員としての専門的な知識と技術を高めつつ、一方で、社会人として、人間としての普遍的な立場から図書館を見つめて行くことの大切さを改めて教えられた9週間だったような気がする。